

《問合せ先》

第十一管区海上保安本部

海洋情報監理課長 野田 秀樹

TEL 098-867-0118 (内線 2510)



令和 2 年 3 月 5 日

第十一管区海上保安本部

那覇空港第二滑走路供用開始に伴い海図を改版します

～船舶と航空機の安全な運航のために～

令和2年3月26日の那覇空港第二滑走路供用開始に伴い「那覇港」の海図を改版します。

改版する海図には、那覇空港第二滑走路、新管制塔及び進入表面(※)が新たに記載されるほか、当庁測量船「おきしお」による最新測量成果も盛り込まれます。

※那覇空港北側では、那覇港に入出港する船舶及び那覇空港に離着陸する航空機との航行経路が競合しているところ、航空機が安全に離着陸するためには、空港周辺の一定の空間を障害物が無い状態にしておく必要があります。(航空法第 49 条)

発行日：令和2年3月13日(金)

改版海図

海図番号	図名	縮尺	サイズ	価格
W243	那覇港	1/12,000	1,085mm × 765mm	3,520 円 (消費税 10%込み)

海図概要：別紙参照

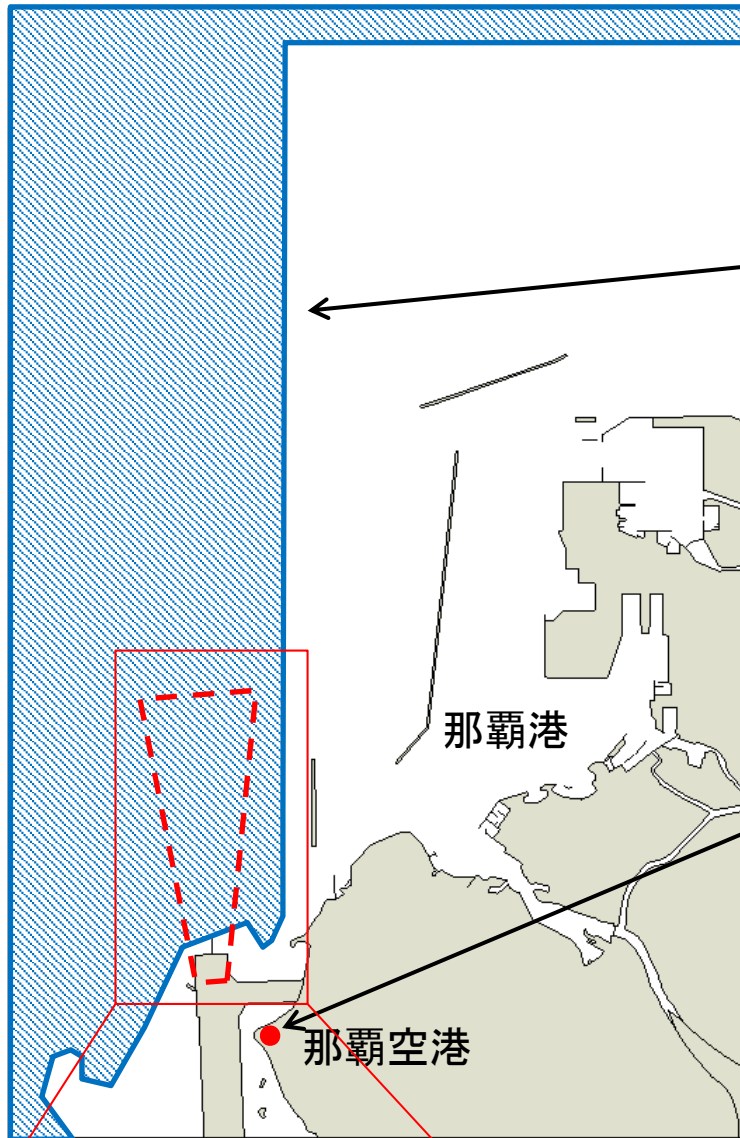
今回の改版により、これまでの海図 W243(那覇港、平成 31 年 1 月刊行)は、廃版となりますので、航海には使用しないでください。

海図は、全国の水路図誌販売所で購入することができます(水路図誌販売所や発行予定は、以下の海上保安庁海洋情報部 Web サイトでご覧になれます)。

<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/default.htm>

なお、海図に関する詳しい内容は、「第十一管区海上保安本部 海の相談室」(電話 098-867-0118(代表) 内線 2511)にお問い合わせ下さい。

海図概要(更新内容)



35年振りに那覇港沖側の水深情報が刷新され、未発見の浅所が無いことが確認されました。

(資料1)

第二滑走路沖の浅瀬周辺が詳細な水深値になることにより、付近を利用する小型船等が安全に航行できるようになります。(資料2)

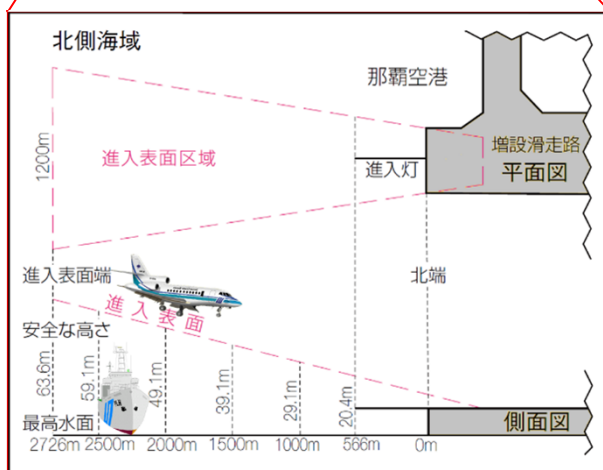
新管制塔(地上高88m)
国内2番目の高さ
(海図上の記載は、平均水面からの高さ約95m)

凡例

測量実施箇所

航空機進入表面区域

進入表面区域断面図



※海図に掲載される断面図に、航空機及び船舶のイメージ図はありません。

海図W243「那覇港」位置

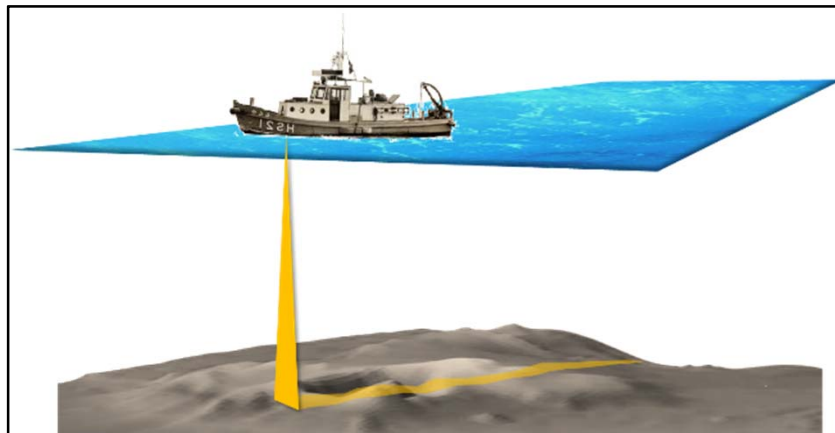


背景図：海上保安庁, (c)Esri Japan

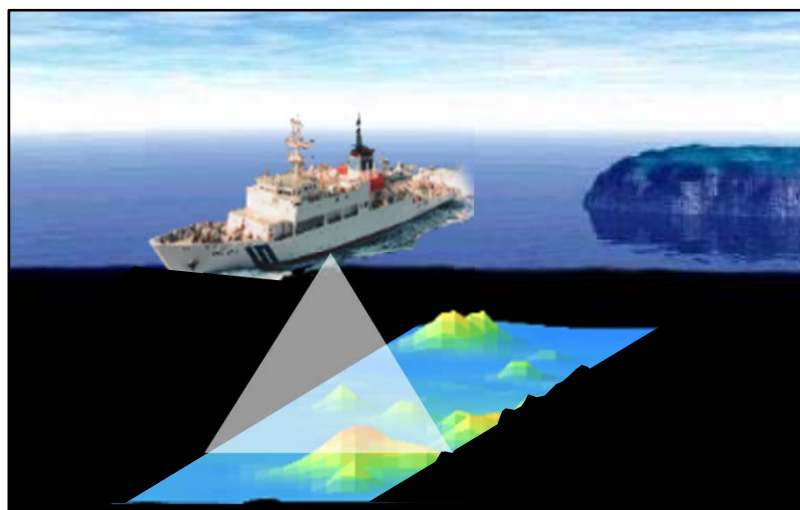
那覇港外の水深情報は、昭和59年当時の技術基準であったシングルビーム測深機による測深間隔が約2kmの線状のデータとして得られたものでした。

このデータは、測深ビームの当たらない区域を含むため、未発見の浅所が存在する可能性があります。

那覇港では現在、22万トン級クルーズ船の入港のため、那覇新港北西側に第2クルーズバースの建設が計画されており、今後の、入港船舶の更なる大型化による喫水の増大により、深くなった船底と未発見の浅所との接触の可能性が高まります。今回、当管区測量船「おきしお」搭載のマルチビーム測深機による面的探査の結果を反映することにより、この可能性を解消することができました。

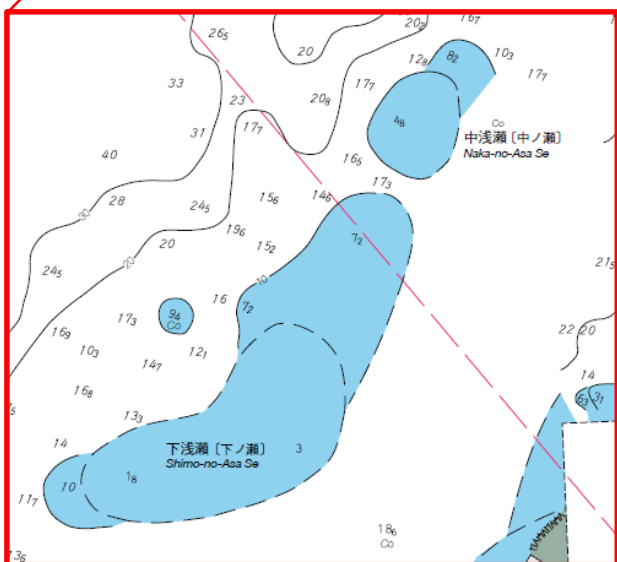
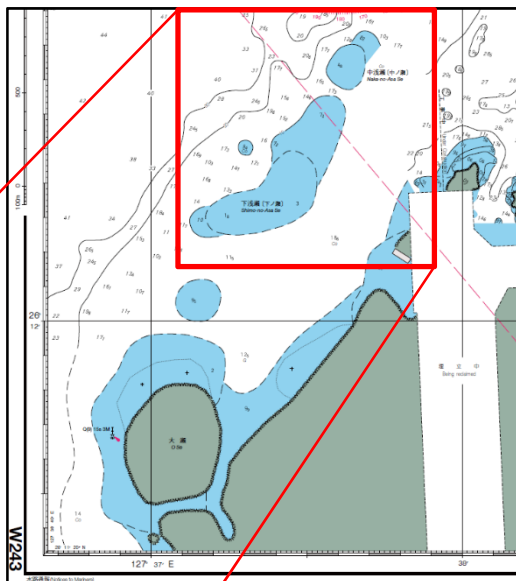


シングルビーム測深機による線状探査のイメージ



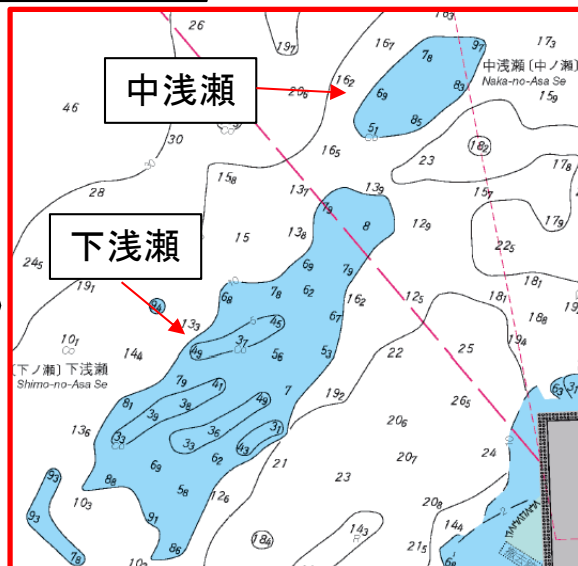
マルチビーム測深機による面的探査のイメージ

改版前



これまで那覇空港沖の『中浅瀬』及び『下浅瀬』付近には、水深値が存在しませんでした。

改版



『中浅瀬』及び『下浅瀬』付近の海底地形が詳細に描画されることにより、付近を利用する小型船等が安全に航行することが出来るようになります。

改版後

